

男子大学生における男性役割とストレスに関する研究

齋 藤 慎 介

問 題：男性役割とは、性役割の一つである。性役割とは、その性にふさわしいとみなされる行動やパーソナリティに関する社会的期待と、そうした期待の影響を受けて個人内に後天的に形成されるイメージであり、心理・社会・文化的要因の影響を強く受けるものである（林，2005）。男性役割とその他の要因との関連について実証主義的に扱った研究は少ない。また，男性役割葛藤がストレッサーになることを示唆する研究は見受けられるが，実証的に示した研究も少ない。

本研究では性役割に関する心理学の分野において，研究が少ないと思われる男性役割に注目し，男性役割がメンタルヘルスに与える影響を考える。特に，男性役割および男性役割葛藤とストレスの関連に着目する。

方 法：調査協力者は，関西の私立大学に在籍する男子大学生および大学院生285名である。調査は，①「男らしさ」に対する態度尺度，②男性役割葛藤尺度日本語版，③男性役割規範尺度日本語版，④自尊感情尺度，⑤日本版Buss-Perry攻撃性質問紙，⑥アレキシサイミア質問紙，⑦Public Health Research Foundationストレスチェックリスト・ショートフォームを用いて行った。分析方法は，①各尺度に対する因子分析，②各下位尺度間の相関分析，③AMS得点から分類した4群を独立変数，SES，BAQ，Galex，PHRFストレス尺度を従属変数とした分散分析，④AMS4群におけるPHRFストレス尺度を従属変数とした重回帰分析（ステップワイズ法）である。

結果と考察：男性役割と自尊感情，攻撃性，アレキシサイミアとの関連について，自尊感情との関連はあまり示されなかった。攻撃性においては，短気と男性役割全般との間に，アレキシサイミアにおいては，体感・感情の認識表現不全と男性役割葛藤との間に関連が示され，さらに自認する男性役割の違いが影響を与えていると示唆された。

男性役割とストレスについては，男性役割に関する葛藤もしくは男性のもつ葛藤的な態度がストレッサーとなり，ストレス反応へとつながる可能性が示唆された。また，自認する男性役割の違いによって，自尊感情，攻撃性，アレキシサイミアがストレスに与える影響は異なると示された。さらに，その影響を詳しく検討した結果，男らしさを積極的に取り入れる男性は，怒りやすさが心理的ストレス，葛藤の身体化が身体的ストレスを強め，男らしさを排除しようとする男性は，身体的ストレスへの影響因が大きく，男性であるにも関わらず男性役割を否定する態度が身体化へつながっていると考えられる。葛藤的な男性は，ストレスは高いが，自尊感情，攻撃性，アレキシサイミアの及ぼす影響は弱いため，男らしさに対する葛藤的な態度がストレスへつながっていると考えられる。無関心な男性は，自分の気持ちがわからない，言えない状態がストレスを強めると考えられる。